島根半島東部のViewポイントの紹介

大小の岩々から成る入江、断崖絶壁、溶岩が織りなす島々－島根半島の海岸線東部には絶景が広がる。多数の海蝕洞と、潮流が岩盤にぶつかり小さな亀裂が入りこれが絶え間なく波風にさらされることで広がって形成された洞門が、松江北東の断崖を縁どっている。

 加賀の潜戸（かかのくけど）には、旧潜戸と新潜戸のふたつの洞窟がある。どちらも仏教と神道の教典で重要である。旧潜戸は、亡くなった子供の魂が送られる賽の磧と言われ、新潜戸は神道の大神の一人である猿田彦大神の生誕地として8世紀の写本に記録されている。新潜戸には三方向に入口があり、中央の入口からは 200 メートルのトンネルが断崖側まで続く。旧潜戸の入口はひとつで狭いが、一歩足を踏み入れると中には洞窟内は広い。岸辺から続くトンネルを通って近くまで行くこともできる。

 もうひとつの荘厳な海蝕洞は、半島の最北端にある多古の七つ穴である。約 400 メートルにわたり高さ 50 メートルほどの海食崖が見られる。海側からは入口が九つあるように見えるが、実際には全部で四つの洞穴がある。加賀の潜戸と多古の七つ穴の両方が国の名勝に指定されており、船でアクセスすることができる。